

主に健康の領域を
中心として

【 こま遊び 】

*健康な心と体 *協同性
*思考力の芽生え *自立心
*言葉による伝え合い

(ねらい)・こまを回したい願いをもって自分の手や体を使って根気良く取り組む

・友だちとうまく回せるようになったことを喜び合ったり、いろいろな回し方に挑戦する

挑戦的意欲を高める遊び

- ・乳児期から年長組になるまでに、大人に回してもらい回ることを楽しんだり、いろいろなこま回しを経験してきた(紙のこま、牛乳キャップこま、ぶんぶんこま、どんぐりこま、引きこま、両手回しこま等)
- ・年長児になり投げこまにチャレンジ。殆どが経験したことの無い遊びでほぼ全員が同じスタートに立つ。
- ・こまが勢い良く回る様子や、友だちが回す様子を見てチャレンジの気持ちがふくらんでくる。
- ・自分が頑張った成果が見えることでより工夫したりチャレンジしたりする。

○こまの投げ方は見よう見まねで投げるがうまく回らない。何回もチャレンジする。

○紐の巻き方で回り方が違う、うまくいかないことに気付き始める。

○うまく回せるようになると友だちに教える幼児もいる。

紐うまくまかれへん！
いいなあ～回って

すごい！やったね！
まわったね

やったあ！



○こまに色を塗り、自分なりのこまをつくり、回ると色が変化することに気付く(いろいろな色を使うと黒くなることを経験する)。きれいな模様にするためにはどんな模様、色を使ったらよいか友だちと考え合う。

★お正月遊びをきっかけにしてこまへの興味関心を広げる。(年長組になったら投げこまに挑戦する)

★挑戦の幅が広がるような環境構成をする。(枠を用意する 大きさの違う箱など幼児たちが探してチャレンジできるようにする等)(回す所もいろいろな場所で試せるようにする)

△うまく回る友だちの紐のかけ方に気付かせる。「〇〇ちゃんのはどうしてうまく回るのかな？」

△周りの友だちの様子を見ながら「やりたい!」「できそう」という思いをもっている幼児の、がんばる気持ちに寄り添っていく。

△教師も一緒に回すことを楽しんだり、伝承遊びとしていろいろな回し方や、手寄せなど見せてもらう機会をもつ等遊びの幅を広げる。

○やっと回り大喜び。周りの友だちの
応援・励まし・共感も嬉しい。

凄いなあ！
長いこと回ってるね

やったあ！やったあ！

わあ～回った！回った！

小さい子にも見せてあげたいな～
喜ぶと思うよ

ぐるぐる回ったらこまの色
きれいや 色が変わるな

今度は違うところで回してみようよ

それ！！
どっちが勝つか
競争だ

よ～いドン！でこま回し競
争したいな



○回せる幼児が増えてくると、長く回す競争（時間）や板
のせ、手のせ、UFO回し（場所・方法）など、遊び方
やチャレンジの幅が広がってくる。

△いろいろなところ（コンクリートの上、板の上、缶の中、
盆等）で回せるか提案してみる。

▲友だちが回せるようになっていくことを喜
んだり、自分も回したいと焦る様子も見え
るが、友だちの姿を見て自分もできると見
通しがもて、頑張る様子が見られる。

知識及び技能の基礎

紐をきちんと巻かないとうまく回らないことに気付く 様々な気付き
手指・体をバランスよく使ってこまを回す
こまの投げ方を習得する

思考力・判断力・表現力等の基礎

どうしたらうまく紐が巻けるかなと考える 試行錯誤 工夫
回っているこまの様子を体で表現したりする
回せるようになるとさらに誰のこまが長く回っているかと観察し、違いや共通点に気付く
いろいろなところで回してみ、こまが回りやすい環境を友だちと相談しながら探す

学びに向かう力・人間性等

自分でこまを回したいという願いをもつ
簡単なこま回しの経験からだんだん難しいものへと憧れをもって挑戦しようとする
友だちの発見や気付きに共感し、他の場面でも互いに考え合う力へとつながっていく